

発行所
宮城県交通安全母の会連合会
(〒980-8570)
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
(宮城県震災復興・企画部総合交通対策課内)
TEL 022-211-2438

会長挨拶

宮城県交通安全母の会連合会
会長 佐々木和恵



宮城県交通安全母の会連合会の会員皆様におかれましては、お健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

「交通安全は茶の間から」をスローガンに母親の立場で平素から地域住民に寄り添い、活発な交通安全活動を精力的に実施していただいておりますことに心から御礼を申し上げます。

また、連合会主催の総会、高齢者交通安全教育指導者研修会やリーダー研修会などに意欲的に参加し、それぞれ地域の活動に生かしていただいていることにも、深く感謝を申し上げます。

さて、昨年の県内の交通情勢は、交通事故者数のうち、高齢者が関与した死亡事故が依然として高い割合で推移しており、合わせて飲酒運転も根絶には至っていない状況にあります。

つきましては、来年度も高齢者世帯への個別訪問を通じて交通ルールやマナーの徹底と、反射材を身につけ、自分の身は自分で守るという意識を高める啓発活動と、飲酒運転の根絶に力を入れ、交通事故のない安全で安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、母の会らしく明るく、しなやかに、粘り強く進めていただきますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様には、益々御健勝で御活躍されますよう心よりお祈り申し上げ、挨拶といたします。

庄司 美智子(岩沼市) 氏家 あつ子(大河原町)
鈴木 耀子(加美町) 練生川 寛子(涌谷町)

高齢者交通安全ふれあい世帯訪問事業



お弁当と一緒にパンフレット等を配布

栗原市の交通安全母の会は、10地区の支部で構成されています。今回、私が所属している瀬峰地区の事業の報告をいたします。私たち母の会は、日赤の奉

仕員も兼ねております。毎年9月～12月まで、月1回、日赤の高齢者支援活動事業から助成金を頂き、地区の高齢者活動である「お茶っこ」会へ月1度の配食サービスを行っております。その時に、弁当と一緒にパンフレット、グッズ等も配布し、母の会の高齢者交通安全ふれあい活動を併せて実施しております。本来ならば、一世帯ずつ訪問しなければならぬのですが、会員減少している今、合同事業として行っております。私たちは、母の会による交通安全啓発活動を続けていくために知恵を出し合い、日々活動しております。



「お茶っこ」会の様子

(二上敬子)

宮城県知事表彰受賞者紹介(敬称略)

第49回宮城県交通安全県民大会表彰

[交通安全功労者]

- 清水 かほる(名取市) 阿部 勝子(多賀城市)
- 高橋 たづよ(岩沼市) 大友 一子(岩沼市)
- 武山 玉枝(大河原町) 氏家 あつ子(大河原町)
- 大河原 みつ子(亘理町) 長谷川 芳江(利府町)

宮城県交通安全母の会連合会長表彰
受賞者紹介(敬称略)

多年にわたり、母の会の活動に従事し、交通事故防止活動に貢献された方々が母の会連合会長から表彰されました。

[個人の部]

- 和地 八重子(石巻市) 勝倉 壽子(気仙沼市)
- 山口 優子(名取市) 佐藤 幸子(多賀城市)

東北ブロック交通安全ボランティア等講習会

平成30年9月13日(木)・14日(金)の両日、内閣府主催「東北ブロック交通安全ボランティア等講習会」が山形市で開催され、当連合会から佐々木和恵会長と、私、理事の高橋たづよの二人で参加いたしました。

1日目は「高齢者(運転者も含めた)の事故防止について」と題して、千葉大学名誉教授の鈴木春男氏の講話がありました。高齢運転者への安全対策や、仲間作りも立派な交通安全教育であることなど御講話いただきました。車を運転しない高齢者が話し合いに参加することで、ドライバーが歩行者や自転車利用者の立場を理解する、反対の立場も理解してもらうというお話が心に残りました。その後、各県活動事例発表があり、宮城県からは仙台市宮城地区交通指導隊の槻木明美さんより日



千葉大学名誉教授鈴木春男氏の講話



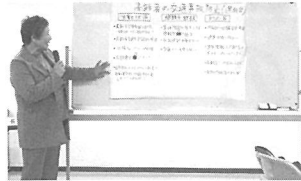
グループ討議の発表

を決めて自転車に特化した街頭指導をしているとの発表がありました。

2日目は「子どもへのグリーフサポート活動」～交通事故で家族を亡くした子どもたちをささえる～と題してあしなが育

英会東北事務所長西田正弘氏のお話がありました。子どもへのグリーフサポート（家族をなくした子供をささえる）や地域でピアサポート（仲間によるささえ合い）の場を作ることの重要性について説明がありました。サポートの必要な人達に出会った時、特に子供さん達は顔に表れるので、今日学校どうだったの等言葉をかけてあげることが必要であると思いました。最後にグループ討議と発表により各県の情報交換を行い、大変有意義な講習会となりました。

(高橋たづよ)



グループの話し合いの結果を発表しました

脳トレ、道路標識を高齢者が見やすく分かりやすいものにする、高齢者マークを貼ってもらう、免許返納後の助成の充実などが挙げられました。大衡村の瀬戸様のスムーズな進行で皆様から活発な御意見をいただくことができ、大変有意義な研修会となりました。(丹野恵子)

飲酒運転根絶啓発活動紹介

平成30年5月22日、大崎市民会館で開催された「第12回宮城県飲酒運転根絶県民大会」に参加しました。飲酒運転が凶悪な犯罪だという認識の浸透が不十分で、今後市民一人ひとりの意識改革がさらに必要と感じました。そこで、登米市内各地区の母の会会長に声掛けし、年末にイオンスーパーセンター佐沼店でパンフレットや啓発品を配布しながら、飲酒運転の根絶を呼び掛けました。また、地区の高齢者のお茶会やレクリエーションの場にお邪魔して「飲酒運転は運転者だけでなく、提供者、同乗者なども処罰され、罰金も高額ですよ」とお話しすると、みなさん真剣な表情で聞き入っていただけました。さらに、1月13日に開催された成人式で、パンフレットを配布しました。華やかで前途輝かしい若者達が、飲酒運転などせず、お酒と上手に付き合っているよう願ってやみません。飲酒運転は「しない、させない、許さない」。今後益々、飲酒運転根絶のための活動を進めていきたいと思えます。(金澤いく子)



スーパーでパンフレットや啓発品を配布しながら飲酒運転根絶を呼び掛ける

リーダー研修会

平成30年12月10日宮城県自治会館においてリーダー研修会が開催されました。12月に入り寒い中70人の御参加をいただきました。会長挨拶、事務局挨拶、東北ブロック



熱心なグループ討議の様子

「平成30年度交通ボランティア等ブロック講習会」の受講報告が行われた後、6グループに分かれてグループ討議が行われました。私は、高齢者の交通事故防止（運転者）に加わりました。最初は、各地区の活動状況をお話しいただきました。高齢者世帯等個別訪問（反射材、チラシ配付）、高齢者交通安全教室の実施、街頭キャンペーンの実施などの報告がありました。続いて、問題点について、身体機能の低下による運転技術の低下、運転免許の自主返納が進まない、交通マナーを守らないといった意見が出されました。最後に、対応策として、定期的な講習会の開催、健康体操・

交通事故発生状況

平成30年中の県内の交通事故発生状況は、発生件数及び負傷者数はいずれも前年から減少しました。また、死亡事故は、55件56人で前年比5件5人増加しましたが、戦後最少を記録した昨年に次いで少ない死者数となりました。しかし、65歳以上の高齢者の交通事故死者は27人で、前年比6人減少したものの、交通事故死者全体（56人）に占める割合が約5割と依然として高い状況となっています。

【交通事故発生状況】

(単位：件、人)

区分	発生 件数	死亡事故		負傷者数			
		件数	死者数	重傷	軽傷	計	
平成30年	6,815	55	56	619	7,887	8,506	
平成29年	7,491	50	51	699	8,654	9,353	
増減	数	-676	5	5	-80	-767	-847
率		-9.0	10.0	9.8	-11.4	-8.9	-9.1

市町村母の会活動紹介

丸森町交通安全母の会連合会大張支部

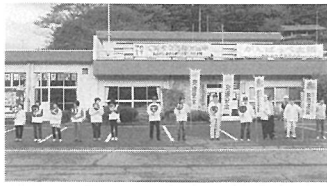
丸森町交通安全母の会には8つの支部があり、今回は町の北西部にある大張支部の活動を紹介します。大張地区は279戸789人の小さな地区で、高齢者の運転免許保有率33%、交通量は自動車自転車歩行者共に少なく、信号機は一つも無い閑静な地域です。

母の会では春と秋の交通安全週間に街頭啓発活動を実施しており、交通安全協会と協力しながら県道を通るドライバーさんにうちわに書いた文字でスピードダウンを促したり、地元産椎茸をもじって酒飲み運転は『シヤゲ』られる作戦を実施し、美味しい椎茸を配りながら飲酒運転追放を呼び掛けてきました。

しかしながら、先日私達の地域で死亡事故が起きてしまい、丸森町としても昨年の11月に交通死亡事故抑止功労知事褒状を戴き、500日の死亡事故ゼロを達成したばかりだったので大変ショックを受けて

おります。

角田警察署主催の元、緊急に交通事故防止の講話が予定され、多くの方に参加を呼び掛けているところです。高齢化率が高い私たちの地区は長閑なだけに油断という危険が隠れているのだと知らされました。



県道でドライバーにスピードダウンを呼び掛ける

今回の事故を教訓に、今後は重点的に夜間の事故を予防出来るよう、反射材の効果や『かもしれない運転』を心掛けてもらえるよう呼び掛けていきたいと思ひます。(伊藤純子)

最後に、研修会の開催に御協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。(鈴木恒子)

仙南地区連絡協議会

仙南4警察署管内の2市9町で構成される仙南地区連絡協議会では、「交通安全は茶の間から」をスローガンに、当地区の交通事故防止に向けて活動しています。



後出しじゃんけん等で「認知・判断・操作」を体験する参加者

10月に丸森町で開催された研修会には、48人が参加し、各自有意義な時間を過ごしました。

講話では、仙南地区の昔話が後世に受け継ぐ「教えや諭し」の考え方を応用し、自分たちの地域に戻って、地域の方に交通安全を呼びかけてみてはと講師の方からアドバイスをいただきました。その後、角田警察署大友ひろみ交通課長から、高齢者が関わる事故が増加している等県内の交通事故の特徴とその原因についてお話しをいただきました。この中で、運転の3要素「認知・判断・操作」の重要性を体験型の脳トレで再認識しました。この自身の身体機能低下の意識付けができるトレーニングも知れて、とても貴重な機会となりました。



来店者に啓発物品を渡し、交通安全を呼びかけ

また、1月17日にみやぎ生活協同組合亘理店で啓発活動を実施し、買い物に来ていた方に対して啓発物品300セットを配布しました。

今後も仙南地区連絡協議会内で連携を図り、仙南地区から悲惨な交通事故がなくなるよう、地域や家庭から呼びかけていきます。(水戸和子)

地区連絡協議会活動紹介

仙台地区連絡協議会



県警交通企画課潮係長の講話

平成30年11月15日、ホテル白萩を会場に仙台地区連絡協議会と仙台市交通安全母の会連合会との合同研修会を開催しました。はじめに県警本部交通企画課潮係長から「自転車の交通安全を考える」と題し、講話をいただきました。今年度の県内の自転車事故は前年より減少しつつも、死亡事故は増加しております。死亡事故は例年増減を繰り返しており、特に朝の通勤・通学の時間帯に発生件数が多くなるとのことです。早めの行動と、ルールへの厳守が求められるのではないのでしょうか。



ワークショップの様子

講話後は①スマートフォンの操作による事故②夜間の自転車事故③幼児を自転車に乗せた母親による自転車事故④高齢者にありがちな自転車事故の4つのテーマについて、8グループに分かれワークショップを行いました。各グループで真剣ながらも和気あいあいとした様子で意見交換が行われ、充実した内容となったのではないのでしょうか。

今回の合同研修会の最大の成果は、仙台地区連絡協議会内の連携が更に強まったことです。会員同士の交通安全への共通認識を新たに、今後の活動により一層努めていきたいと思ひます。

大崎・栗原地区連絡協議会

平成30年11月8日、加美町中新田文化会館において、大崎・栗原地区連絡協議会研修会が開催されました。



大崎・栗原地区連絡協議会永塚会長の挨拶

加美警察署佐々木交通課長から「最近の交通情勢について」と題して講話をいただきました。県内の事故発生状況として、事故件数は減少しているものの、高齢者による事故の割合は増えているとの説明があり

春の交通安全県民総ぐるみ運動

期 間 平成31年5月11日(土)から5月20日(月)までの10日間

交通事故死ゼロを目指す日 5月20日(月)

- 運動の重点
- ①子供と高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止
 - ②自転車の安全利用の推進
 - ③全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
 - ④飲酒運転の根絶





加美町交通安全母の会連合会の活動事例発表

ました。また、最近、「運転免許証を返納したいが、身分証明書代わりに使っているのでは、何かいい方法はありませんか」という相談が増えているそうです。自主的に返納し、申請すれば、運転経歴証明書が交付され、この証明は生涯有効で、身分証明書代わりに使えて便利です、と説明がありました。活動事例発表では、加美町交通安全母の会連合会古内幸副会長より「新成人への飲酒運転根絶署名活動」を加美町成人式会場において実施し、翌日、新成人の代表2名が加美警察署へ根絶を誓った署名簿を提出しているとの報告や、石巻市、仙台市との交流研修会について発表がありました。また、国立音楽院宮城キャンパス佐野綾香様より「若返りリトミック」アトラクションが披露され、音楽に合わせて楽しく体を動かしました。体力と健康を保持しながら、悲惨な交通事故をなくすため、関係機関と連携して、これからも活動を展開してまいります。(永塚正子)

登米・本吉地区連絡協議会

平成30年11月26日、登米市東和総合支所において、平成30年度豊齢者交通安全教室を開催いたしました。



登米・本吉地区連絡協議会佐藤会長の挨拶

当日は、登米市内の高齢者約40人が参加し、高齢者の交通事故防止についてのDVD鑑賞や、セーフティサポートカー「みやぎくん」と歩行シミュレーターを使った交通安全体験をしていただきました。

「みやぎくん」には、車を運転中、急に飛び出してくるものに対し正しく反応できるかなどドライバーに必要な身体的機能をチェックできる機器や、交通社会において、ドライバー、歩行者ともに必要とされる認知力・判断力・動作



セーフティサポートカー「みやぎくん」で身体機能等をチェック

力・瞬間記憶力を「もぐらたたき」の要領で楽しく診断できる機器などが搭載されており、参加者の皆さんには、様々な体験を通し、運転中や歩行中に注意すべき点を再確認していただくことができました。

登米・本吉地区においても、高齢者の交通事故の割合は高くなっていることから、高齢者の皆さんには、今回の交通安全教室を機会に、より一層交通安全に心掛け、交通事故に遭わないよう十分に気を付けていただきたいと思います。

今後も、私たち交通安全母の会は、交通安全推進のため、「交通安全は茶の間から」を合言葉に活動を続けてまいります。(佐藤喜久子)

石巻市交通安全母の会



今年は、6月に総会を開催し、34人のメンバーで精力的に活動することを誓いました。

9月には地域行事「福祉のつどい」に参加し交通安全啓発の福祉のつどいに参加し、釜・大街道地区の高齢者に対して交通安全啓発グッズを配布し、交通安全の重要性を伝えました。

11月には、視察研修として、塩竈市の交通安全母の会を訪問しました。はじめに、塩竈警察署交通課奥富巡查長から、交通安全について石巻弁を交えたコミカルな講演をいただきました。その後、塩竈市と石巻市の交通事情と、母の会の活動について意見交換を行いました。

共通する活動もあれば、異なる活動もあり、今後の活動を行う上で、新たな発見があり、塩竈市の母の会との親睦を深めることができました。

その他、市や県が主催する交通安全大会などのイベントにも積極的に参加し、充実した一年となりました。



塩竈市交通安全母の会を訪問

石巻市は震災により母の会の担い手が激減し、会員不足及び活動地域の増大が課題となっておりますが、これからも私たちは「交通安全は茶の間から」を合言葉に、地域とのふれあいを深め、交通事故の防止や、飲酒運転の根絶に向けて活動していきたいと思えます。(高橋富子)

第26回 あなたもチャレンジ！無事故無違反

セーフティ123

あなたもチャレンジ！無事故無違反「セーフティ123」は、3人チームで参加し、123日間の無事故無違反を目指し、交通安全意識の向上を図ることを目的に実施しているキャンペーンです。

無事故無違反達成チームには、抽選で賞品が当たりますので、職場の仲間、家族、友達、ご近所さん等でふるって参加しましょう。

○募集期間 平成31年5月1日～平成31年6月14日

○チャレンジ期間 平成31年6月15日～平成31年10月15日(123日間)

セーフティドライブで
賞品ゲット!!!
(前回の1等賞品はチームに9万円の商品券)

お問い合わせ みやぎ交通安全啓発・実践キャンペーン実行委員会事務局(宮城県震災復興・企画部総合交通対策課内)
TEL: 022-211-2438